

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	国際化と日本社会					授業形態
英 訳	Internationalization and Japanese Society					単独
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
<b>【授業の目的】</b> 日本国内の具体的な事例をもとに、「民族」や「移民」について考えるために必要な 基礎的な知識を習得することが目的である						
<b>【授業の到達目標】</b> 国際化が進む日本における民族的マイノリティの状況について理解を深めることを目標とする。						
<b>【授業の概要】</b> 日本国内の民族的マイノリティを取り上げ、外国人の法的地位、ニューカマーの来住過程、労働や生活、教育などについて講述する						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること						
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 インTRODクシヨN 第 2 回 日本に住む外国人とニューカマーの来住 第 3 回 在留資格 第 4 回 国籍 第 5 回 エスニックコミュニティの形成 第 6 回 地域社会と外国人 第 7 回 日本から海外への移民 (1) 第 8 回 日本から海外への移民 (2) 第 9 回 国際結婚と外国人女性 第 1 0 回 外国にルーツを持つ子どもたちの教育 (1) 第 1 1 回 外国にルーツを持つ子どもたちの教育 (2) 第 1 2 回 災害と外国人 第 1 3 回 技能実習生の受け入れ 第 1 4 回 看護師・介護福祉士の受け入れ 第 1 5 回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜、紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 小テスト (40%) 課題提出 (40%)、授業への取り組み (20%)						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	国際社会論基礎					授業形態
英 訳	International Society-Basic					単独
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の目的】 日本国内の具体的な事例をもとに、「民族」や「移民」について考えるために必要な 基礎的な知識を習得することが目的である						
【授業の到達目標】 国際化が進む日本における民族的マイノリティの状況について理解を深めることを目標とする。						
【授業の概要】 日本国内の民族的マイノリティを取り上げる。具体的には難民、中国帰国者、アメラジアン、アイヌ 民族について講述する。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 難民 (1) : インドシナ難民の受け入れ 第 3回 難民 (2) : 国際機関と難民法制 第 4回 難民 (3) : 難民の現状と支援 第 5回 難民 (4) : 第三国定住と日本の受け入れの現状 第 6回 中国帰国者 (1) : 中国東北部への移住 第 7回 中国帰国者 (2) : 残留婦人・孤児の帰国 第 8回 中国帰国者 (3) : 現状と課題 第 9回 アメラジアン 第 10回 アイヌ民族 (1) : 伝統文化 第 11回 アイヌ民族 (2) : 文化の継承と創造 第 12回 アイヌ民族 (3) : 近代以前の歴史 第 13回 アイヌ民族 (4) : 近代以降の歴史と現状 第 14回 国際社会と先住民族 第 15回 まとめ						
【テキスト】 特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
【参考書・参考資料等】 適宜、紹介する。						
【成績評価の方法等】 小テスト (40%) 課題提出 (40%)、授業への取り組み (20%)						
【履修要件等】						

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	国際社会学					授業形態
英 訳	International Sociology					単独
配当年次	2 年次 前 期	必選別	選択	単位数	2 単位	
<b>【授業の目的】</b>						
近代以降の世界構造を理解するための基本的な枠組みや概念を学び、国際社会の現状を多面的・多層的視座から考えることを目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b>						
授業を通じて、現代世界の成り立ちを理解し、国際社会やグローバル化を考える基礎的な力をつける。						
<b>【授業の概要】</b>						
近代以降、国民国家と資本主義が世界の在り方に決定的な影響を与えている点をふまえたうえで、「西洋と東洋」「日本とアジア」「先進国と途上国」の関係性や文化、民族、宗教といった概念について考察する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b>						
予習：事前配布された資料は必ず読んでおくこと。 復習：授業の要点をまとめ、不明な点があれば次の授業で質問できるようにしておくこと。						
<b>【授業計画】</b>						
第 1回 インTRODクシヨン						
第 2回 わたしたちは世界をどのように認識しているのか?①						
第 3回 わたしたちは世界をどのように認識しているのか?②						
第 4回 国民国家論①						
第 5回 国民国家論②						
第 6回 世界システム論						
第 7回 オリエンタリズム①						
第 8回 オリエンタリズム②						
第 9回 中間まとめ						
第10回 現代世界と文化						
第11回 現代世界と民族						
第12回 現代世界と宗教						
第13回 現代世界における「われわれ」と「かれら」①						
第14回 現代世界における「われわれ」と「かれら」②						
第15回 まとめ						
<b>【テキスト】</b>						
特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b>						
西川長夫『国境の越え方<増補版>』平凡社ライブラリー						
<b>【成績評価の方法等】</b>						
小テスト (40%) 課題提出(30%)、授業への取り組み(30%)						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	人権と社会A					授業形態
英 訳	Human Rights and Society A					単独
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 日本社会の具体的な事例に関する基本的な知識を習得するとともに、それをベースとして人権について考察することを目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会の一員として、また自分の問題として、履修者それぞれが人権について考える核になるものを作り上げることを目標にしたい。						
<b>【授業の概要】</b> Aでは在日コリアンを中心に取り上げる。渡日や日本への定住の歴史、広島での被爆、生活や差別の状況、権利の保障などについて講述するとともに、在日コリアンの方の講演やフィールドワークも予定している。また、ハンセン病元患者に対する差別についても取り上げる。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 配布資料などをもとに、前回の授業の内容をしっかりと復習して次の授業に臨むこと						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 渡日の歴史 (1) : 日本の植民地支配 第 3回 渡日の歴史 (2) : 日本への渡航過程 第 4回 軍都廣島の形成 第 5回 渡日の歴史 (3) : 戦時中の強制動員 第 6回 朝鮮人被爆者 第 7回 戦後の生活と差別の状況 (1) 第 8回 戦後の生活と差別の状況 (2) 第 9回 在日外国人と社会保障 第10回 在日外国人の参政権と公務就任権 第11回 民族教育と教育の権利 第12回 フィールドワークと講演 第13回 ハンセン病元患者に対する差別 (1) 第14回 ハンセン病元患者に対する差別 (2) 第15回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の際に適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業中の小レポート (30%) と学期末のレポート (70%) で成績を評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 特になし						

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲		
授業科目	グローバル化論				授業形態
英 訳	Theory of Globalization				単独
配当年次	2 年次 後 期	必選別	選択	単位数	2 単位
<b>【授業の目的】</b> 現代世界において急速に進むグローバル化を具体的に理解し、それが引き起こす問題と可能性を多面的・多層的視座から考えることを目的とする					
<b>【授業の到達目標】</b> 授業を通じて、現代世界の変化の意味を考え、国際化やグローバル化を考える基礎的な力をつける。					
<b>【授業の概要】</b> グローバル化とは本質的に何を意味しているかを学び、それによって世界がどう変化しているかを考える。主にアジアに焦点をあて、グローバル化の具体的な問題や人びとが直面している変化をとりあげる。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 予習：事前配布された資料は必ず読んでおくこと。 復習：授業の要点をまとめ、不明な点があれば次の授業で質問できるようにしておくこと。					
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 インTRODクション 第 2 回 グローバル化とは何か 第 3 回 グローバル化が浸透する世界① 第 4 回 グローバル化が浸透する世界② 第 5 回 グローバル化と格差 第 6 回 グローバル化と移動 第 7 回 グローバル化と均質化／多様化 第 8 回 グローバル化と受容／抵抗 第 9 回 グローバル化のなかのアジア① 第 10 回 グローバル化のなかのアジア② 第 11 回 グローバル化のなかのアジア③ 第 12 回 グローバル化と日本社会① 第 13 回 グローバル化と日本社会② 第 14 回 グローバル化と日本社会③ 第 15 回 まとめ					
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。					
<b>【参考書・参考資料等】</b> 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』平凡社新書					
<b>【成績評価の方法等】</b> 小テスト (40%) 課題提出(30%)、授業への取り組み(30%)					
<b>【履修要件等】</b>					

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	人権と社会B					授業形態
英 訳	Human Rights and Society B					単独
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 日本社会の具体的な事例に関する基本的な知識を習得するとともに、それをベースとして人権について考察することを目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b> 社会の一員として、また自分の問題として、履修者それぞれが人権について考える核になるものを作り上げることを目標にしたい。						
<b>【授業の概要】</b> Bでは被差別部落を中心に取り上げる。まず、被差別部落の現状と差別の実態について講述した後、被差別部落の歴史について講述する。また、ホームレスの人々、HIV陽性者・AIDS患者、セクシュアルマイノリティについても取り上げたい。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 配布資料などをもとに、前回の授業の内容をしっかりと復習して次の授業に臨むこと						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 被差別部落の現状と差別 第 3回 日本の被差別身分 (1) : 中世まで 第 4回 日本の被差別身分 (2) : 江戸時代 第 5回 被差別部落と近代 (1) : 明治以降の状況 第 6回 被差別部落と近代 (2) : 戦前の運動 第 7回 戦後の運動と同和対策事業 第 8回 被差別部落のこれから 第 9回 HIV 陽性者・AIDS 患者 (1) 第10回 HIV 陽性者・AIDS 患者 (2) 第11回 ホームレスの人々の現状と支援活動 第12回 セクシュアルマイノリティ (1) 第13回 セクシュアルマイノリティ (2) 第14回 セクシュアルマイノリティ (3) 第15回 まとめ						
<b>【テキスト】</b> 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の際に適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業中の小レポート (30%) と学期末のレポート (70%) で成績を評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 特になし						

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	文化交流史					授業形態
英 訳	Cross Cultural Interaction					単独
配当年次	3 年次 前 期	必選別	選択	単位数	2 単位	
<b>【授業の目的】</b>						
戦前から戦後に至るまでの日本の異民族・外国人政策の歴史と、広島を中心に当時の日本における多文化・多民族状況について理解することを目的とする。						
<b>【授業の到達目標】</b>						
授業を通じて、日本社会や地域の多様性や国際化の歴史を理解することで、生活世界のグローバル化に向き合うための基礎的な力を育む。						
<b>【授業の概要】</b>						
資料や文献から戦前や戦後における日本社会と行った異民族・外国人との関係について学ぶ。そうした歴史を物語る県内の史的跡地や当時を知る人物を訪ね、日本社会の多文化・多民族の歴史について具体的な認識を深める。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b>						
予習：事前配布された資料は必ず読んでおくこと。						
復習：授業の要点をまとめ、不明な点があれば次の授業で質問できるようにしておくこと。						
<b>【授業計画】</b>						
第 1 回 インTRODクシヨン						
第 2 回 近代日本における国際意識の生成①						
第 3 回 近代日本における国際意識の生成②						
第 4 回 帝国日本の異民族①						
第 5 回 帝国日本と異民族②						
第 6 回 戦後日本の外国人政策①						
第 7 回 戦後日本の外国人政策②						
第 8 回 戦前・戦中における広島の多様性①						
第 9 回 戦前・戦中における広島の多様性②						
第 10 回 戦後における広島の多様性①						
第 11 回 戦後における広島の多様性②						
第 12 回 学外学習①						
第 13 回 学外学習②						
第 14 回 学外学習③						
第 15 回 まとめ						
<b>【テキスト】</b>						
特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b>						
適宜、紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b>						
小テスト (40%) 課題提出(30%)、授業への取り組み(30%)						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	アジア社会論A					授業形態
英 訳	Asian Society A					単独
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 中国および台湾の地理的位置、自然環境、民族構成について学ぶ。						
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 中国および台湾の地理的位置、自然環境、民族構成について説明できるようになる。 2. 中国および台湾社会を自力で理解していく力を身につける。						
<b>【授業の概要】</b> 本講義は現在、世界経済と文化の中心地として、大きな飛躍の時代を迎えているアジア、特に東アジア文化圏と多民族国家の中国と台湾を取り上げ、中国および台湾の社会やアジアにおける多様な価値観、文化について解説する。内容は、自然環境、民族問題などから構成される。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ノートおよび配布プリントを整理し、内容を理解しておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2回 中国の地勢① 第 3回 中国の地勢② 第 4回 中国の気候① 第 5回 中国の気候② 第 6回 中国の自然と暮らし 第 7回 中国の民族問題 第 8回 台湾の範囲 第 9回 地理的位置と自然環境 第10回 地理的位置と人文環境 第11回 地形① 第12回 地形② 第13回 気候 第14回 台湾の民族構成 第15回 まとめと到達目標の確認						
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の中で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業中の課題 (70%)、小テスト (30%) で評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 中国語に興味や関心があることが望ましい。						



区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲		
授業科目	地域国際化論				授業形態
英 訳	Regional Globalization				単独
配当年次	3 年次 後 期	必選別	選択	単位数	2 単位
<b>【授業の目的】</b> 近年の日本社会の国際化・グローバル化がどのように展開しているのかを具体的に理解することで、地域社会の変化とその意味を実践的に考える力を養うことを目的とする。					
<b>【授業の到達目標】</b> 授業を通じて、地域社会において具体的に進むグローバル化の実態を理解することで、その変化に向き合うための基礎的な力を育む。					
<b>【授業の概要】</b> 文献や資料から1980年代以降の在日外国人の動態変化を把握したうえで、広島を中心に日本社会では、そうした変化がどのような事態や問題を生み出しているのかを具体的な場所や人物を通じて理解する。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 予習：事前配布された資料は必ず読んでおくこと。 復習：授業の要点をまとめ、不明な点があれば次の授業で質問できるようにしておくこと。					
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 インTRODクシヨン 第 2 回 在日外国人の動向① (1980S～) 第 3 回 在日外国人の動向② (1990S～) 第 4 回 在日外国人の動向③ (2000S～) 第 5 回 グローバル化と地域社会① 第 6 回 グローバル化と地域社会② 第 7 回 広島で暮らし働く外国人① 第 8 回 広島で暮らし働く外国人② 第 9 回 広島で暮らし働く外国人③ 第10回 外国人の労働・暮らしを支える① 第11回 外国人の労働・暮らしを支える② 第12回 学外学習① 第13回 学外学習② 第14回 学外学習③ 第15回 まとめ					
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。					
<b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜、紹介する。					
<b>【成績評価の方法等】</b> 小テスト (40%) 課題提出(30%)、授業への取り組み(30%)					
<b>【履修要件等】</b>					

区 分	国際コミュニケーション科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	アジア社会論B					授業形態
英 訳	Asian Society B					単独
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 中国および台湾の人口問題、歴史、社会構造について学ぶ。						
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 中国および台湾の人口問題、歴史、社会構造について説明できるようになる。 2. 中国および台湾社会を自力で理解していく力を身につける。						
<b>【授業の概要】</b> 本講義は現在、世界経済と文化の中心地として、大きな飛躍の時代を迎えているアジア、特に東アジア文化圏と多民族国家の中国と台湾を取り上げ、中国および台湾の社会や歴史、日本との関係について解説する。内容は、人口問題、歴史、社会構造、日本との関係などから構成される。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ノートおよび配布プリントを整理し、内容を理解しておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2回 人口問題① 第 3回 人口問題② 第 4回 社会構造① 第 5回 社会構造② 第 6回 中国の経済発展と問題 第 7回 中国のまとめ 第 8回 台湾の人口とその構成① 第 9回 台湾の人口とその構成② 第10回 日本の統治政策 第11回 台湾からみた日本統治時代 第12回 湾生(台湾生まれの日本人)からみた日本統治時代 第13回 灌漑化と農業地域 第14回 戦後の台湾社会 第15回 まとめと到達目標の確認						
<b>【テキスト】</b> 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の中で適宜紹介する。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業中の課題(70%)、小テスト(30%)で評価する。						
<b>【履修要件等】</b> 中国語に興味や関心があることが望ましい。						